

# 日本の食の安全特別コース

## Progress 日本の食の安全人材育成プログラムの展望と現状

このプログラム立ち上げから約14年間、運営委員会委員長として活躍されていた田村先生の定年に伴い、これまで副委員長であった川村が委員長を引き継ぐことになりました。

このプログラムでは、留学生が1期生から14期生まで73名が入学し、日系食品系企業に70名が就職して、各方面で活躍してきました。また、1期生5名、6期生から10期生まで25名と12期生から14期生までの9名の合計39名の国費枠を確保してきました。しかし、13期生と14期生では、コロナ禍で海外でのリクルート活動がほぼできず、リモートでの広報も行いましたが、国費枠すら埋められない状況でした。また、この15年で世の中も大きく変わり、日本企業の給与水準が東アジアや東南アジアと比較して抜群に高くなるようになってきています。これにより日系食品系企業へ留学生を就職させるこのプログラムでは、リクルート活動は以前より難しくなってきました。一方で、日本の少子化と連動した労働者人口の低下は進行中であり、海外からの優秀な人材確保とその育成は、待ったなしの状況です。

このような状況を踏まえ、まず、2023年度入試から秋入学のみならず、春入学制度で日本語能力の高い学生の入学の仕組みを作り、4月にタイからトポウンさんが入学してきました。また、留学生の就職先は当初の冷凍食品中心から食品全般の分野へと徐々に対象分野を拡大してきましたが、さらに農学のSDGs関連分野などへ対象を広げる必要に迫られてきている状況と考えています。

16期生以降の入学生に関しては、今まで認めてこなかった博士課程進学も可能なプログラムにすることなど、留学生にとつて、より魅力あるプログラムにするために、研究分野の拡大を含めて再構築をしなければいけない時期かと思われまます。

今後につきましては、方向性が見えてきた段階で、皆様とご相談しながら、留学生と参画企業様と大学が、ウィン・ウィン・ウィンの関係を構築できるよう努力していきたいと考えています。今後、大きな変化があるかと思いますが、日本の将来にとつて役立つプログラムにしていきたいと考えておりますので、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(川村教授)

## Topics 退任の挨拶と教育及び就職担当マネージャー就任の挨拶

2009年4月、経済産業省のアジア人財資金構想の1つとして発足した日本の食の安全特別プログラムは、2010年の事業仕分け以降、香川大学大学院日本の食の安全人材育成プログラムとして自立化し、私自身2023年3月までの14年間同プログラムの運営委員会委員長として務めさせていただきました。学生のリクルート、就職、特別講義の開講など様々な面でプログラムを支えて下さった企業の皆様、大学教職員の皆様にこの場を借りて、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。特に学生への奨学金に深い理解を示された日本国際協力財団理事長、故神内良一様には感謝しています。無事退職を迎え、発足当初から副委員長としてプログラムを支えてこられた川村先生に委員長をバトンタッチすることができました。

この節目に、一言述べますと、アジア人財資金構想は、単なる優秀な留学生を日本に呼び寄せるプログラムではなく、留学生に日本語を学ばせ、日本で就職し、活躍させるプログラムでした。本来、日本人企業主は英語を使いこなし、会社を経営するグローバル時代だとの認識から、英語を使いこなせる人材登用を図るべきですが、経済産業省と文部科学省は、取って留学生に、日本語学習を促しました。これにより、中小企業においても、日本製品の輸出を容易にし、グローバルマインドを持った企業を増やそうとしました。それがアジア人財資金構想です。実際、今現在、外国人を雇用していない企業は少ないでしょう。大なり小なり日本の企業はグローバル化の大波にあります。香川大学の日本の食の安全プログラムは、日本で唯一の食品に特化したグローバル人材育成プログラムです。今後は、食品のみならず、農業、環境の分野を取り込みつつ、グローバル化の波にある大学院教育の受け皿になることを目指しています。私ごと、4月から香川大学特命教授として、日本の食の安全特別プログラムの教育・就職を担当する教員及び学生の留学(SURFプログラム)を支援する教員として引き続きます。今後とも、よろしくお願いいたします。

(田村特命教授)



田村先生を送る会での記念撮影

## News 入学生の紹介

2023年度は4月にタイからトポウンさんを新入生として迎えました。抱負を胸に目標に向かって取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いたします。



- ①トポウン タイパック
- ②TOPOUNG Traipak
- ③トポウン
- ④モンクット王工科大学  
バイオテクノロジー・  
食品技術学部
- ⑤タイ出身

⑥日本の食の安全特別コースを修了後、日本で食品安全に関する研究職に就き、実務経験を積みたいです。新入社員時代は様々な部署や仕事に触れ、目の前の仕事を必死で覚えながら、仕事の流れを掴みたいです。3年から5年後には明確な目標を持ち、専門性を持って自分にしかできない仕事をしたいです。



- ①氏名(フリガナ)
- ②氏名(名字・名前)
- ③呼び名
- ④最終学歴
- ⑤出身国
- ⑥今後の抱負

## News 留学生工場見学について

2022年秋に入学した14期生が1〜3月にかけて、本コースにご協力いただいている企業6社を訪問し、事業内容の説明を受けた後、工場内を見学させていただきました。

昨年はコロナ禍の影響で訪問を受け入れてくださる企業も少なく、リモートでの工場見学が多かったのですが、今年からは実際に訪問できるようになり、2月16日には味の素冷凍食品株式会社四国工場を訪れることができました。冷凍食品工場における品質管理体制や生産工程を見学し、説明を受けた後、実際に生産された商品の試食もさせていただきました。

今回の工場見学は日本の食品企業の生産を直接見ることができ、留学生にとつて大変貴重な体験になりました。その他、受け入れてくださった企業の方々にも感謝申し上げます。

(樋口特命教授)



## Review 日本の食の安全特別コース第6期生より

入学した時、私がコース初のインドネシア人学生で、同じ国出身の先輩がいなくて、日本語も下手だったので当時は大変だと感じました。それでも一生懸命勉強するしかありませんでした。ですが、経験からすると、やはり努力は結果を裏切らないものです。修了後、不二製油株式会社に入社し、未来創造研究チームでパーム油に関する研究をしました。2018年にインドネシアに帰国、その後もインドネシアの研究機関でパームの研究を続けました。現在は専業主婦として二人の娘を育てています。難易度の違いはあるにせよ、勉強も仕事も家事もすべて大変だと思えます。最後に学生のみなさんに一言。大変でも夢を諦めず、このプログラムで積み重ねた経験を使い、後悔しないように今やっっていることを一心に頑張ってください。



6期生 ニア アミリア (インドネシア)